令和４年度　第１回教育課程編成委員会

日　時：令和４年 10 月７日（金）20：09～21：05
場　所：長崎医療技術専門学校　会議室
出席者：長尾　博，松本逸郎，西　啓太，有福浩二，大坪　建
　　分部哲秋，韋　傳春，岩永隆之，早野和之，林　勇一郎，荒木一博
司　会：韋　傳春

1. 出席者紹介
2. 校長挨拶
　・入試の状況報告（総合型選抜，指定校・推薦の出願者数）
　　総合型選抜入試は終了し PT7 名，OT2 名の入学が確定している．
　　指定校・推薦入試は本日が願書締め切り日となっており，PT32 名，OT22 名の願書が提出された８年間で最高であり，残り３回の一般入試で 80 名集まるように頑張っていきたい．
3. 前回会議後の報告
　・前期の状況報告
　　授業：全て対面授業（登校停止者のみオンライン）
　　臨床実習：期間の短縮（3 年 2 期　8W→7W），一部の学生が 1～3W 学内実習
　　解剖実習：学内演習（8 月 16 日～24 日，26 日），3 年連続
4. 開会
　当委員会第 6 条の規定による出席数を満たしており，本委員会は適切に成立していること確認する．
5. 委員長選出
　委員長は，分部哲秋校長で進めさせて頂く．
6. 審議事項

林　）休学・退学者の傾向と対策について

- 近年，本校の休学者・退学者は増加傾向となっている．
- 過去 3 年間の休学者と退学者の推移について，1 年生の割合が 60%以上となっており，要因としては「成績不良」「意欲」「体調不良」があげられる．
- 令和 2 年度より休学者･退学者の数も傾向がみられる．新型コロナウイルス感染拡大により，オンライン授業や学校行事の中止等の経験をしている学生が多い世代である．
- 過去 3 年の定期試験の平均点の分布では二極化がみられ，主体的に学習することができない集団が存在している．
- 学習が順調に進んでいる集団と，学習状況が滞っている集団との格差が生じ成績不振に繋がって，休学もしくは退学となっていることが考えられる．
- 前期定期試験の結果と入学前課題（解剖学と生理学）の確認テスト，国語力テストの関係性では入学前課題確認テストと定期試験結果とに強い正の相関がみられる．
- 休学者・退学者をできるだけ出さないようにするための学校の取り組みとして以下を行った．
　①医療基礎の時間に，解剖学補習を取り入れ，複数の教員で実施した．
　②今年度のスクーリングより，模擬授業を取り入れ学習のイメージをつけるように促した．

- 今後の対策として早期に将来像をイメージできるような時間を設け学習意欲を高める対応をとることやモチベーションをさらに向上させるために，講義だけでなく外部への演習などを増やし，臨床現場で自分が働くイメージの構築ができるよう内容を再検討する．
- 相談しやすい環境づくりとして，学生への声掛け，相談しやすい雰囲気づくりを行い，面談などを通して早期に学生の悩みをキャッチするように努める．
- オフィスアワーの設定，医療基礎での班活動の促進，クリーンデイを通じた教員と学生との交流，スクールカウンセラーによる健康調査の実施など学生個々の性格に合った相談しやすい環境づくりに努める．さらに具体的に活動していくためにご助言を頂ければありがたい．

松本）入学前課題確認テストとはどのようなものか．

林　）解剖学と生理学の内容で事前に学習したものをどれだけ覚えてるかというテストである．

松本）前期定期試験結果とよく相関していると感じる．

林　）内容は異なるが入学前の課題は私が赴任する前から行われていた．課題の遂行具合と入学後の頑張り具合はどことなく似たような印象がある．

長尾）一般的に退学に至る背景には学業不振や意欲低下，生活リズムの崩れなどがあるが本校ではどれに当てはまるのか．

韋　）退学者の原因はその都度分析しているが，やはり成績不良や学習意欲低下が理由になっている．

長尾）対策としてリメディアルみたいなことをやっていると思うが，先生方が協力して補講などされていることが大事じゃないかと思う．それが本当に効果を示すのかは今後みていかないといけない．

長尾）休学者について単純に学業不振で休学というよりも他のとこに行きたいとかはないのか．

林　）今期の休学者の中には心療内科にかかり休学になるものもいた．

長尾）対策の中にスクールカウンセラーが健康調査をするという項目もあったが，心理的要因も休学や退学にあるとしたら，スクールカウンセラーと連携しないといけない．よくあるのはスクールカウンセラーが守秘義務を守るということで何の相談をやっているのか学校は知らなかったとかいうのは昔のやり方であり，今は，どのような相談が来てるか，それをカウンセラーから校長または学長が理由を聞いて理解し，学生には分からないようにしながら予防線を練っていくことが必要である．全部スクールカウンセラーに頼るよりも何の不満があってそのような状態になっているのかを把握する必要がある．例えば一番多いものに友達ができないとかの理由もあるが，その時は担任が上手にリードして友達づくりの世話を担うような関りも必要になる．スクールカウンセラーとの連携は重要である．学業不振については今やってることでよいのではないかと思う．

松本）1 年生に休学や退学の該当者が多いということは，良い事ととらえられる側面もある．良い事というのは 2 年生・3 年生まで無駄に引きずらないことかもしれない．数の充足は経営的には良いがマッチングしない人たちも出てくる可能性があるため，そういう人たちは早めの進路変更もありというように考えてみてはどうか．就学前から医療系の色んな情報に触れさせる取り組みが必要で，落ちこぼれないように支えていくことは大事であるが，それでも合わないのは仕方がない．1 年次はそれでよいと思うが 2 年次，3 年次まで引きずっていき，国家試験で結局ダメになるのはいろんな意味で不幸である．モチベーションを上げる取り組みであるが，入学後の臨床の様々な現状を実際のビデオやドラマなどを利用してみるのも方法であると思う．

有福）イメージを持たせる働きかけとして，関わっている大学では 1 年生の医学部の学生や看護学生，

PTOT の学生にオンライン上で病院紹介を毎年 2 時間ぐらいかけて行っている．病院側からも医師や看護師，セラピストが出席し各部署の説明や意見交換を 7 月頃に開催している．このような取り組みもイメージを持たせやすくさせると感じている．毎週病院からスタッフに来てもらい話をしてもらう方法もあると思う．イメージができない理由はやはり接する機会がないことが一番であるため，オンラインなども活用できると思う．

大坪）1 年生の休学者や退学者が多い中で，入試での選別ができないのか．受験者は概ね合格するように聞こえたが，入学後にスクールカウンセラーが必要な精神的な問題をもつ学生がいたりする場合，そういう方を不合格に該当するような基準はないのか．

韋　）指定校推薦入試と推薦入試に関しては高校側の審査を通った学生が受験しているという側面があるので，なかなか不合格にできない現状がある．ただ本校は面接を重視しているところもあるので，推薦入試でよっぽど気になる学生については熟慮することもあるが，一方で定員を満たしていない現状もあり慎重に判断している．一般入試では PT は若干不合格を出した実績もある．

長尾）経営的な視点からどんな方でも入学させるとなると，毎年これくらいの数の退学・休学者は出るという割り切った考えも必要である．しかし真面目にどうにかしようと考えるのであれば論議が違ってくる．先程話したスクールカウンセラーに相談しながらすすめるのも対策の一つである．

西　）私も大学でその学生の退学・休学という場面に事例として共有する機会があるが，近年家庭環境やバックグラウンドの面で勉強したくても環境が整ってない者が増えてきてる印象がある．よく聞いてみると親を介護してるとか，兄弟の面倒見なきゃいけないという学生が学習習慣のない学生の中に潜んでいることが少なからずあると思う．対策も挙げられているので先生方も承知の上だと思うが，そういう学生を金銭面とかでどこまでバックアップできるかっていうのは本当に悩んでいる．

韋　）金銭面に関して公表はしていないが，相談があれば分納という形や奨学金の金額調整，無理のないような計画について，面談をさせて頂きフォローしている．校納金の相談に関しては副校長が窓口となり，できるだけ柔軟に対応している．

林　）ここ最近，医療過疎地って言われる病院に関しては奨学金を出してくれるところも増えてきている．利用している学生の実績はないが，そういうところを紹介して少しでも経済的な負担を軽減させられるように働きかけもできる．

西　）想像だが，子供もコロナでだいぶ環境が変わったと同じように親もいろんな仕事の状況って変わってるケースがあると思うので，そこで一人で悩んで辞めてしまわないよう面談などのコミュニケーションの機会が必要と思う．

長尾）心理学的には日本の事情として経済や格差社会の問題は別として，今の日本の家族は本当に幸せなのかをデータでみると，10 家族中，幸せいっぱいっていうのは大体 4 割あるいは 3 割，7 割が崩壊家族か擬似家族といわれている．従来は精神科医や医者，カウンセラーが対応していたが，やはり身近な担任とかの存在が大切になる．親子関係がうまくいかないとか，離婚しつつあるとか，弟の面倒みなきゃいけないとか，そういうことの悩みを聞き，対策を練ることが求められる．今後の予想としては家族ケアというのは担任の仕事として若干必要である思う．

大坪）他の業種の専門学校でも同じようなデータがあるのか．またどういう取り組みをしているのか．

林　）職業教育学研究のデータでは一部の県のデータではあるが，美容系の学校の場合，退学者の 9 割

は 1 年次であり，原因としては生活習慣の乱れや集団不適用というのが多いとされていた．美容系，医療福祉分野系はそういう傾向が高いようである．しかし医療系専門学校は成績不振が第一であり，つまり学力不振をどれだけサポートするかというのが一番責務だと感じている．

有福）休学を経て退学していくのか．

林　）病気によって休学になり，回復して戻ってくる学生もいるが，ほとんどは休学から退学にシフトしている傾向はある．

長尾）休学中は何もしなくてよいのか．特に課題などはないのか．

林　）課題は出していない．休学してる学生のタイプにもよるが，頻回に顔を出していた方がストレス耐性が高まる学生に関しては定期的に来校させ，さらに復学する時期になると来る回数を増やしていくというようなやり方はしているが，学校に来る事が負担となる学生に関してはあえて連絡も入れず一旦離れてもらうような関りをしている．

長尾）内容によりけりであると思うが，勉強についていけないんじゃないかということで休学しているとしたら学校が簡単な問題を出したりしてフォローすることも大事であると思う．一般に他の大学などでは休学した学生は休学中にカウンセリングを受けるようになってる．休学の種類に応じたフォローが必要である．

林　）今回，国語力テストを行ったが，次に行う時は文章読解力や記憶力を問うなど問題づくりに工夫して，ターゲットを絞った問題をテストしてやってみたいと思う．

松本）経験として自分で文章を練って書く課題は力がわかりやすい．採点の難しさはあるが，何を考えてるか，どのような思考過程かが割とわかりやすい．

林　）学力低下の対策として授業における聴覚理解と視覚理解について，どのように工夫して行けばよいのか今後も調べていきたい．先行文献には最近のスマホ世代では視覚理解の方が多いと傾向が出ているが，スライドの授業を増やしたから理解できているかというとそうではない．極度に聴覚理解が悪いのか，その辺も今後調査をしてみたい．

松本）最近のスマホ世代は SNS などでの単語でやり取りが多く，文脈がきちんと理解できるのかなという疑問がある．作文を書かせたら全然書けない．

林　）一般入試の方では作文が試験としてあるが，指定校推薦入試の場合はない．今後も対策については引き続き考えていきたい．

7．総評

校長）休学や退学の問題の根底にはやはり学力低下や学生の質の変化を感じる．しかし各学生に相対して関わっていくことが大切であり，今後も努力していきたい．

8．謝辞

校長）出された様々なご意見を参考に改善していきたい．

9．閉会

韋　）これを持ちまして第 1 回教育課程編成委員会を閉会する．

次回の教育課程編成委員会は令和 5 年 3 月 24 日（金）20：00 を予定する．